

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(令和7年4月解析分)

今月のトピックス

新たに開始された、急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス、現在流行拡大している百日咳について、お知らせします。

(1) 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの開始について

令和7年4月7日から、感染症法上の5類感染症に位置付けられた急性呼吸器感染症（ARI）について、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症と同様に、発生動向の調査（サーベイランス）が始まりました。インフルエンザなどは、病原体を調査するのに対し、ARIは、「せき・のどの痛み・呼吸困難・鼻水・鼻づまり」の症状が1つ以上ある患者数について、定点医療機関（広島県内であらかじめ指定された医療機関）から毎週報告を受け、集計の上、公表するものです。

これまでは、新型コロナウイルスのような未知の病原体が発生した場合、病原体の確定と診断方法が整備されるまで探知が難しいなどの課題がありましたが、ARIの発生の傾向を把握することで、的確な初動対応につなげることが可能となります。また、一部の医療機関では検体が採取され、どのような病原体（ウイルスの種類）であるかも検査し、日常診療にも役立てられます。

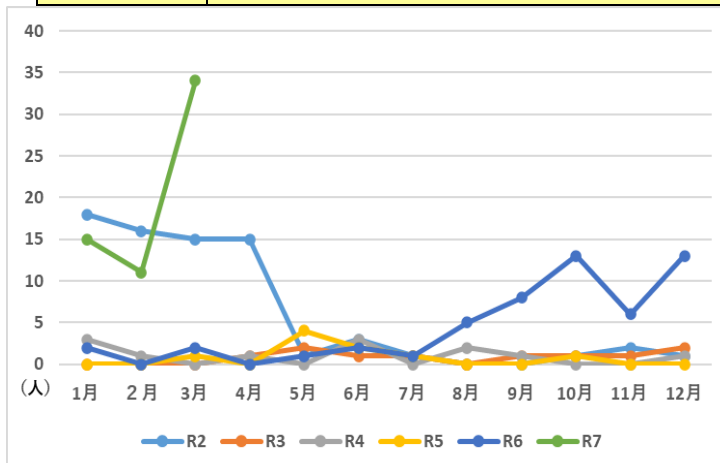
 広島県 ARI 

(2) 百日咳

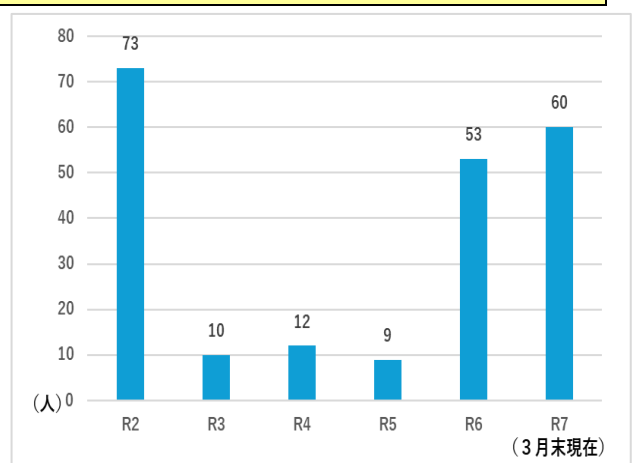
百日咳は、百日咳菌による感染症で、一年を通じ幅広い年齢層で発生がみられます。広島県では令和6年8月頃から患者数が増加し、令和7年は既に令和6年の患者数を上回っています。

乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。成人では、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れ感染源になることがあるため、乳児の周りでは特に注意が必要です。

病原体	百日咳菌
症状	感染から7～10日の潜伏期間の後に風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます。その後、短い咳が連続的に起こり、次第に特徴のあるけいれん性の咳となります。 また、年齢が小さいほど症状は多様で、乳児期早期では特徴的な咳はなく、単に息を止めているような無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止と進展することがあります。乳児（特に新生児や乳児期早期）では重症になり、肺炎、脳症を合併することがあり、特に注意が必要です。
感染経路	飛沫感染、接触感染
予防方法	・ワクチン接種が有効です。（定期接種：5種混合ワクチン） ・基本的な感染対策（手指衛生、場面に応じたマスクの着用、換気等）



百日咳の過去6年間の月別発生状況（広島県）



過去6年間の年間患者報告数（広島県）

 広島県 百日咳 

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和7年 3月分(令和7年3月3日～令和7年4月6日:5週間分)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号
1	インフルエンザ	606	1.04	1.20		11	ヘルパンギーナ	3	0.01	0.08	
2	新型コロナウイルス感染症 (covid-19)※1	1,549	2.65			12	流行性耳下腺炎	6	0.02	0.04	
3	RSウイルス感染症	594	1.61	0.73		13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.01	
4	咽頭結膜熱	117	0.32	0.35		14	流行性角結膜炎	139	1.46	0.44	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	705	1.91	0.97		15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	感染性胃腸炎	4,445	12.01	4.28		16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	水痘	40	0.11	0.08		17	マイコプラズマ肺炎	33	0.33	0.03	
8	手足口病	14	0.04	0.18		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	伝染性紅斑	62	0.17	0.04		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	49	0.49	0.01	
10	突発性発しん	56	0.15	0.27		※1 第19週(5/8～)から五類に変更。					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和 7年 2月分(2月 1日～2月 28日)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号
20	性器クラミジア感染症	55	2.50	3.31		24	メシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	3.85	3.07	
21	性器ヘルペスウイルス感染症	29	1.32	0.92		25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0.15	0.13	
22	尖圭コンジローマ	12	0.55	0.88		26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.00	
23	淋菌感染症	19	0.86	1.17		※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 伝染性紅斑 (0.07 → 0.17)
感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.20 → 0.49)
○急減疾患 なし

発生記号(前月と比較)

急増減			1:2以上の増減
増 減			1:1.5～2の増減
微増減			1:1.1～1.5の増減
横ばい			ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患, 月報対象7疾患)について, 県内178の定点医療機関からの報告を集計し, 作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1, 2	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	74	19	22	20	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾 患 名 (管轄保健所)
一 類	0	発生なし
二 類	25	結核(25)〔西部保健所(2)、西部東保健所(2)、東部保健所(6)、広島市保健所(9)、呉市保健所(2)、福山市保健所(4)〕
三 類	5	細菌性赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕 腸管出血性大腸菌感染症(4)〔広島市保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕
四 類	9	A型肝炎(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕 E型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 デング熱(1)〔広島市保健所(1)〕 レジオネラ症(5)〔東部保健所(1)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)〕
五 類	73	アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(3)〔東部保健所(1)、呉市保健所(2)〕 バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 急性脳炎(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4)〔広島市保健所(2)、福山市保健所(2)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(6)〔広島市保健所(3)、福山市保健所(3)〕 破傷風(1)〔福山市保健所(1)〕 梅毒(17)〔西部保健所(1)、広島市保健所(11)、福山市保健所(5)〕 百日咳(35)〔西部保健所(3)、西部東保健所(2)、東部保健所(2)、北部保健所(1)、広島市保健所(26)、呉市保健所(1)〕